

# 1 未曾有の被害

我が国観測史上最大となる強い地震により、大きな被害をもたらした東日本大震災には、今もなお解決すべき多くの問題が残されています。今後の一日も早い復興の実現のためには、あらゆる立場の人が力を合わせ、被災者の方々の困難を自身のこととして受け止める姿勢が必要です。

## 東日本大震災の発生

2011(平成23)年3月11日14時46分、日本列島は激しい揺れに襲われました。後に「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」と名付けられたこの地震の震源は三陸沖、規模はマグニチュード9.0でした。

地震の強さは、一番強かった宮城県北部で震度7、宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通りなどで震度6強、岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津地方などで震度6弱と発表されました。

強い地震とともに、東北地方太平洋沿岸を襲ったのが津波です。最大21メートルにも及ぶもので、遡上高(津波が海岸から内陸へかけ上がる高さ)では40メートルを超えた地域も

あるなど、これまでに経験したことのない大きな津波でした。

## 被害の状況

津波により、沿岸部で壊滅的な被害が発生し、多数の地区が壊滅しました。この震災における人的被害は甚大で、現在も多くの人々が行方不明となっており、復興庁の発表によると2023(令和5)年3月現在で、死者は19,765人(災害関連死を含む)、行方不明者は2,553人です。1995(平成7)年の阪神・淡路大震災では死者は6,434人、行方不明は3人でしたので、今回の被害の深刻さがわかります。

住宅については、122,039棟が全壊し、283,698棟が半壊しました。

## 原発事故の発生

さらに、地震と津波は原子力発電所にも襲いかかりました。福島第一原子力発電所は所内電源の喪失により冷却機能が停止、ついには爆発が発生し放射性物質が飛散してしまうという深刻な事態となりました。多くの人々が、居住地からの避難を余儀なくされたのです。